



第三章

誇りを 培つ

かけがえない郷土の記憶こそ、
 時代が生みだしてきた誇りであり、
 私たちが愛してやまない歴史である。



ふるさと 逍遥

安土の歴史は古く、先史時代にさかのぼります。
国指定史跡の遺跡や古墳、城跡が
先人たちの営みを雄弁に物語っています。



大中の湖南遺跡

昭和30年代の干拓事業で発見された国指定史跡で、縄文時代から鎌倉時代にかけて各時代の遺構が分布しています。弥生時代の典型的な農耕集落跡があり、当時の農耕の様子が分かるといふ意味においても貴重です。

古来、湖(うみ)と呼ばれてきた母なる琵琶湖。その恵みを受けた肥沃の地、安土にははるか昔から人々が住み着いていました。その暮らしぶりは大中の湖南遺跡や下豊浦弁天島遺跡からたどることができます。また、滋賀県下で最大規模を誇る前方後円墳の瓢箪山古墳は、古代近江を支配した狭狭城山君を埋葬したものと考えられています。

中世の安土を支配したのは近江源氏の流れを汲む佐々木(六角)氏です。鎌倉時代に近江の守護職に任せられた佐々木氏は、室町時代に織山(観音寺山)に観音寺城を築き、交通の要衝という安土の地の利を生かして日本初の楽市楽座を築くなど経済の振興に努め、近江に繁栄をもたらしました。



瓢箪山古墳

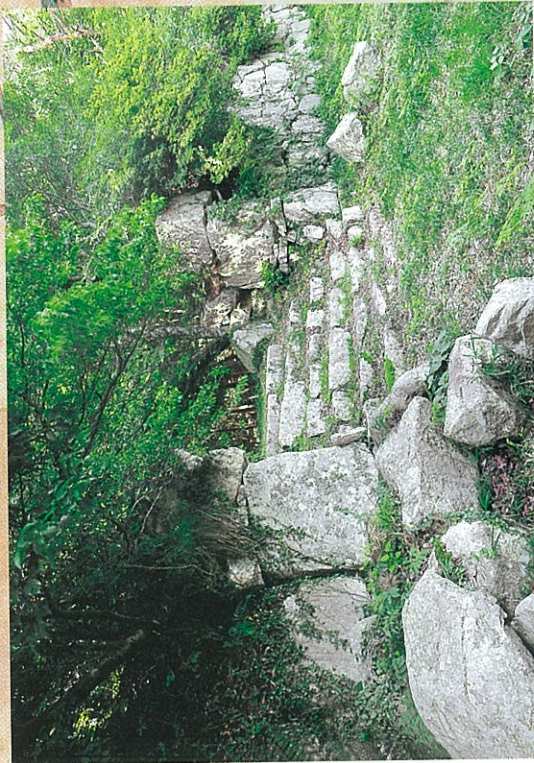
4世紀後半に造られた滋賀県で最大かつ最古の前方後円墳です。埋葬されているのは古代近江の豪族、狭狭城山君と推定されています。

古墳時代の瓶



観音寺城跡古絵図

観音寺城は織山(観音寺山)の地形を利用して建てられた山城で、当時の城郭としては最大規模だったと言われています。



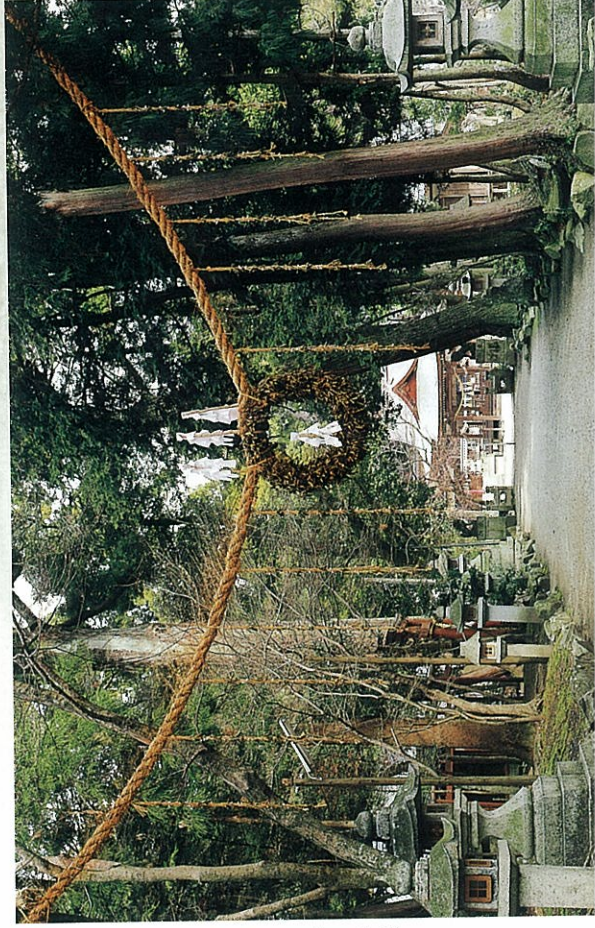
観音寺城跡

佐々木(六角)高頼が近江国支配の拠点として成仁(1468)年に家臣の伊庭行隆と山内政綱らに命じて築城させたと伝えられます。



観音正寺本堂(西国三十三カ所霊場 第三十二番札所)

推古13(605)年、聖徳太子創建。平成5年に焼失し、平成16年に現在の木造入母屋造りに再建されました。(写真は旧本堂)



老蔭森

万葉の昔から歌に詠まれてきたたき著大な歌枕の地で国の史跡に指定されています。森の中には織山(観音寺山)をご神体とする奥石神社が鎮座しています。



織田信長肖像画

織田信長と安土城

織田信長が天下統一のシンボルとして安土の地に持てる力すべてを注いで築いた安土城は、日本が世界に誇る天下の名城でした。

信長所用の鉄兜

信長の所用と伝えられる鉄兜で、南蛮風の唐草模様が施されています。



群雄割拠の戦国時代に頭角を現した戦国武將、織田信長は全国を支配する拠点として壮大な城を築くことを決意しました。その場所として信長が選んだのは日本のちょうど中央に位置し、陸路水路の便が良い景勝の地、安土でした。琵琶湖を一望する安土山山上に天正4（1576）年の着工から約3年の歳月をかけて築かれた五層七重の天主をいただく安土城は、その当時の国内外に並ぶものない巨大かつ豪華絢爛な城郭でした。しかし、信長が持てる力のすべてを傾けて建設した古今未嘗

有の城は、完成から3年経った天正10（1582）年、信長が本能寺の変に散った約2週間後、信長と命運をともにするかのようには焼失しました。現在、往時の栄華をしのばせるのはわずかに石垣と天主閣跡だけですが、幻の名城として今も人々を魅了してやみません。

←まげすの罫
信長が戦に先立ち、永楽銭のひと握りを空高く投げたところ、ことごとく裏向きになりました。その後、桶狭間の合戦に勝利した信長は、愛力の数銭に永楽銭を埋め込み、合戦に有利に戦ったことから「まげすの罫」と伝わっています。



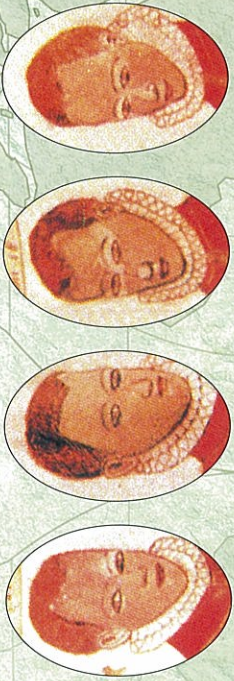
安土城図（大阪城天守閣蔵）



生那安土城（圖）
四年正月織田信長が築
安土城の山を三河條用
頂上七層の天主閣あり
南竹間東西七十間と云
乃ち八方備より右府曹外
の寺郡と高閣の築之ヲ
信長と天主閣と遠く望み
生那石寺村著障屋史迹
を所由改て卯年先考
得て臨寫之家甚だり近
能谷直行居士史學湖之
好大井之と四方築集
貴金筆ヲ揮て世古
当に之を誇り云々
第五月六日晴品宮保録

安土七十三リヨ

西洋文化の窓口となったセミナリヨ(神学校)。
そこに学び、ヨーロッパに派遣された天正少年使節は
日本とヨーロッパの国際交流のさきがけとなりました。



天正少年使節4名の肖像

左から伊東マンシヨ、千々石ミゲル、中浦ジュリアン、原マルティニョ。彼らは九州のキリシタン大名大友宗麟、有馬晴信、大村純忠の名代として海を渡りました。

ヨーロッパから来日したイエズス会のヴァリニャーノ宣教師は、キリスト教布教に日本人司祭が不可欠だと考え、信長の許可を得て、天正9(1581)年にセミナリヨ(神学校)を安土と九州(有馬)に開設しました。このセミナリヨは、日本人子弟の教育を行うだけでなく、西洋楽器の演奏会が行われるなど西洋文化を伝える窓口になりました。ヴァリニャーノ宣教師はキリスト教布教のさらなる一手として日本人使節をヨーロッパに派遣することを思いつきました。後に天正少年使節と

呼ばれる4名の若い少年たちは、天正10(1582)年1月に長崎港を出发し、ポルトガルに上陸。ヨーロッパの各都市をめぐり、最終目的地のバチカンでローマ法王グレゴリオ13世に謁見し、信長から託された安土城を描いた屏風絵を献上しました。その後、帰国した彼らは豊臣秀吉の助けたキリスト教禁止政策のために苦難に満ちた生涯を送りましたが、彼らのまいた国際交流の種は安土町という土地で大きく花開きました。



安土セミナリヨ跡

天正9(1581)年に日本で初めて開校した神学校がセミナリヨです。建物は安土城の炎上時に焼失したため、学跡と推定される場所が公園として整備されています。

平成少年使節団



平成元年8月、約400年前のヨーロッパに渡った天正少年使節の足跡をたどって、当時と同じ年代の町内の中学生4名が平成少年使節団としてヨーロッパに派遣されました。使節団は、天正少年使節がヨーロッパで立ち寄ったポルトガル、スペイン、イタリアの都市を訪問し、各地で心温まる歓迎を受けました。そして、バチカンでは天正少年使節と同じようにローマ法王ヨハネ・パウロ2世と謁見を果たしました。この平成少年使節団派遣と並行するように、天正少年使節からローマ法王に献上され、現在は行方が分からなくなっている屏風絵を探るプロジェクトも進められました。

安土城発掘調査と整備

廃城から約400年、
石垣の姿だけに往時の面影を残す大城郭。
その構造や歴史の解明に注目を集めてきました。

平成元年度から20年度にかけて、特別史跡安土城跡調査整備事業が実施されました。わずかにこぼれ残る石垣の姿だけに往時の面影を留めていた安土城跡に対し、滋賀県が文化遺産として将来に向けて保存・活用することを目的として実施されたものです。

安土城が歴史上存在したのはわずか数年。幻となったその姿を追い求める人が後を絶ちません。大手道や百々橋日道などの調査のほか、道沿いに位置する伝羽柴秀吉邸跡、伝前田利家邸跡などの環境整備を行い、豪壮華麗な安土城の姿の一端がよみがえりました。



安土城天主跡

天主を支えたであろう111基の大型の礎石は、20×20mの範囲に、碁盤目状に並んでいます。



国際交流の主なできごと



平成元年8月 平成少年使節ローマへ派遣①
天正少年使節と同じ年代の安土町内の少年4名が、使節の足跡をたどってローマを訪れ、ローマ法王ヨハネ・パウロ2世との謁見を果たしました。

平成元年11月 国際文化交流都市調印②
安土町からの国際文化交流の呼びかけに応えたイタリア・スペイン・ポルトガル9都市と国際文化交流提携の調印を行い、各市長と懇談して相互理解を深めました。

平成4年4月 セベリア万博開催③
スペインで開催されたセベリア万博の日本館に安土城天主閣の模型がメイン展示されることになったのに合わせて視察団を派遣しました。

平成8年11月 ジャパンウィーク開催④
イタリア・ヴェネツィア市で開催されたジャパンウィーク。日本の生活文化や芸能、美術などの紹介と、友好親善を目的に開催されました。安土町からは安土城や、まちの文化・観光のPRを行いました。



国際交流

国際交流

国際交流では、天正少年使節の足跡をたどってイタリア・スペイン・ポルトガルの9都市と400年の時を越えて交流を深めています。

平成元年には平成少年使節団をイタリアに派遣し、ローマ法王と謁見。平成4年にはスペイン・セベリア万博で、日本館のメイン展示として安土城天主閣が復元され、大盛況を呼びました。また平成8年にはイタリア・ヴェネツィ

アでジャパンウィーク開催、イタリア・イモラ市長の安土町表敬訪問、マントヴァ市のジュニアユースサッカーチームと安土中学校サッカー部との交流試合など、豊富な交流を行い、平成8年からは国際交流員招致事業も行っています。その他、平成17年には安土町の交流団がローマ法王と謁見、平成19年には安土城屏風絵探索プロジェクトも行われました。

姉妹都市

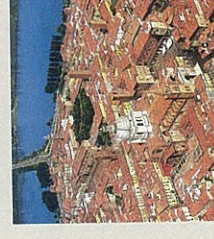
◎北海道 上ノ国町

北海道渡島半島にあるまちで、400年以上前、渡島半島を支配した奥平頼廉が織田信長に使者を送ったという史実から友好提携を結びました。



◎イタリア マントヴァ市

天正少年使節の訪問が縁で姉妹都市提携を結びました。イタリア共和国のロンバルディア州に属し、三方を3つの湖に囲まれた美しい古都です。



◆その他の文化交流都市

【イタリア】フェラーラ、イモラ、リヴォルノ、ジェノヴァ
【スペイン】バルセロナ、サラゴサ、トレド
【ポルトガル】ヴィラ・ヴィオソ

交流の変遷

近世の扉を開いた 信長と安土

「信長サミット」を通じた国内交流、
「天正少年使節」の史実にちなんだ国際交流など
信長で結ばれた縁に基づく交流が行われています。

国内交流

約400年前、織田信長が築いた安土城下には国内はもとより海外からも多くの人が集まり、一大国際都市が形成されました。その歴史を背景に、安土町は国内外の都市交流に積極的に取り組んできました。

国内交流では、織田信長の生誕450年にあたる昭和59(1984)年に、同じく織田信長や織田一族にゆかりの深

い全国の市町村に呼びかけ、第1回織田信長サミットを開催しました。織田信長を地域の貴重な文化遺産として地域振興に活用していくため、参加市町の市長、議会議員、商工会、観光協会の会長らが一堂に会して活発に意見を交換しています。現在、このサミットには近畿・東海・関東・東北の11市町が参加加盟しています。



織田信長サミット



織田信長
サミット
参加市町

1000人以上が集える総合体育館

「あづちマリエート」



マリエートは、「調和・結びつき」を意味するフランス語の「マリエ」と「創造」を意味する英語の「クリエート」から作られた造語です。1000人以上が収容できる多目的ホールに総合グラウンド、テニスコートを併設しています。

安土城天主信長の館・文芸セミナーヨ・あづちマリエートからなる「文芸の郷」と隣接する歴史ミュージアム「県立安土城考古博物館」は、一大歴史ゾーンです。

施設の外観は、すべて安土桃山文化が栄えた16世紀のヨーロッパをモチーフにし、文芸セミナーヨ内にはパイプオルガンを設置するなど、異国情緒満点です。

敷地内には、ステラ広場・バンビーニ広場・ヴェルテ広場、ポポロ広場など、憩いとコミュニ

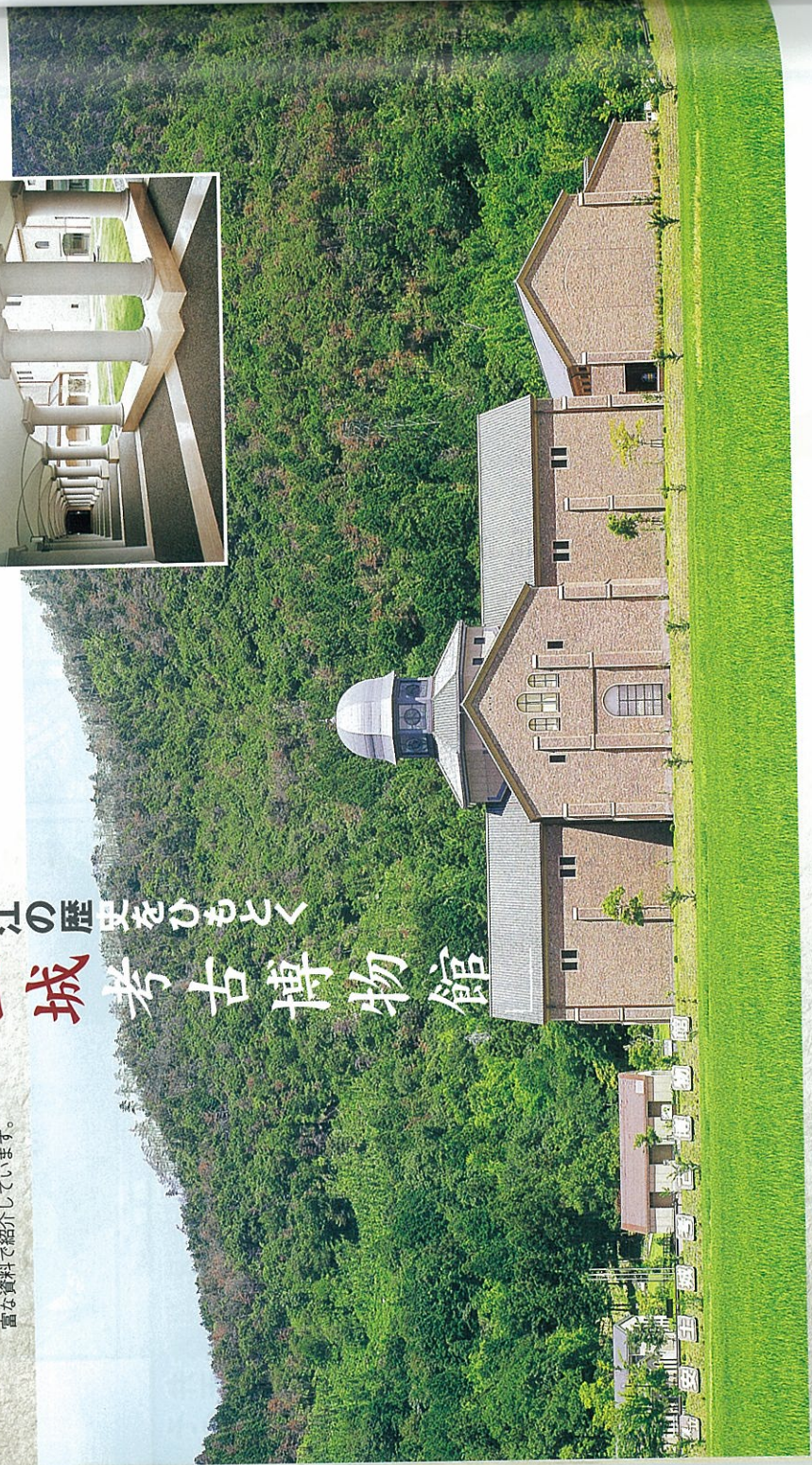
ケーションのスペースの他、アヒルやコイのいる池、季節の花々が咲き誇るお花畑、裏山の斜面を利用した「あど木つすらんど」などが設けられ、自然を満喫することができます。

その他、グラウンドやテニスコートもあり、隣接する文芸の郷レストランでは地場産物をふんだんに使った食事を楽しむことができます。

ここに来れば、子どもから大人まで1日中、歴史や文化、自然に触れ合うことができます。

「考古」と「城」から近江の歴史をひもとく 「県立安土城考古博物館」

特別史跡安土城跡、観音寺城跡、大中の洲常陸跡、瓢箪山古墳など県内の主要史跡を紹介するほか、「考古」と「城跡」という2大テーマに基づき、遺跡の出土品や古代の暮らしぶりの再現展示やや中世から近世にかけての城郭の変遷等を豊富な資料で紹介しています。



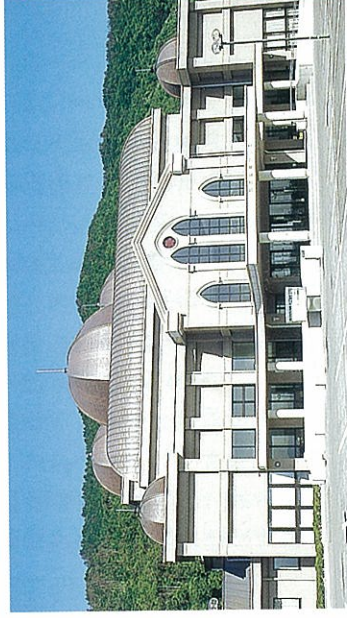
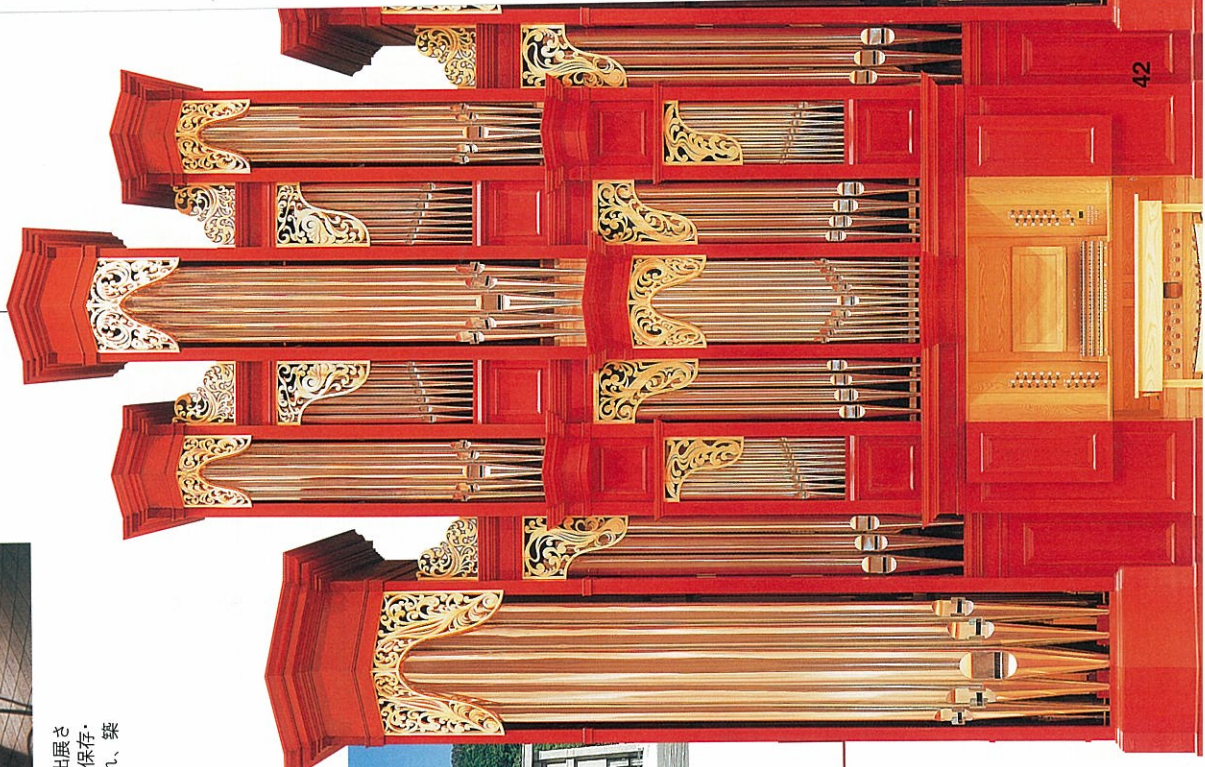
「安土城天主の原寸復元を展示する 信長天主の館」

1992年のスペイン・セビリア万国博覧会に出展された安土城最上部5・6階部分の復元模型を保存・展示しています。豪華絢爛な安土城が見られ、築造時を彷彿とさせています。

近江風土記の丘の中心部にある文芸の郷と安土城考古博物館。安土町を代表する施設が集まるこの地から安土の文化が発信され、人が集い、交流が生まれます。

創文
造化

文芸の郷 周辺



文化交流・創造・発信ステーション 「文芸セミナーヨ」

安土に開かれた神学校「セミナーヨ」にちなんで命名され、音楽会や演劇、講演会など文化活動に広く利用されます。音響にこだわったホール、ステージ中央にはイギリス製のパイプオルガンが設置されています。

安土歴史探訪

安らぎの土地
安土

恵まれた自然や
数多くの歴史
遺産に守られ

心安らぐ地として
多くの人たちに
愛されてきたのね

安土の歴史

そのルーツは
太古にまで
さかのぼるの
じゃぞー！

うわッ
信長像が
動いた！

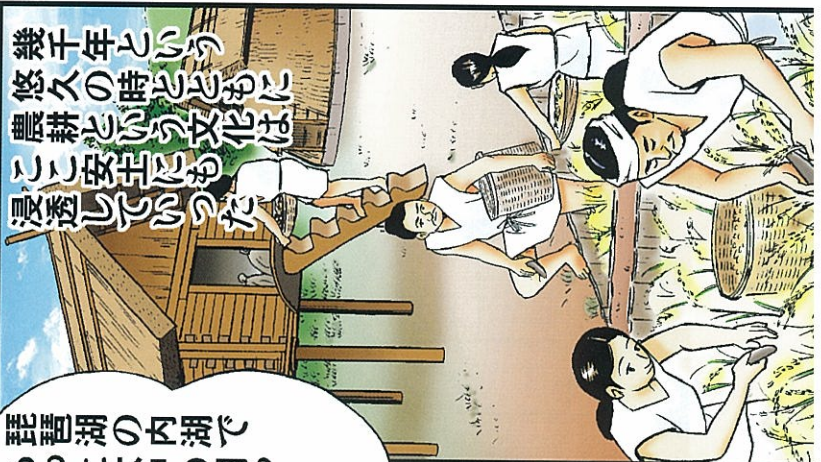
安土のまちの
歴史探訪とな...

わしが
案内しよう！

まずは
大中あたり
へ...



その昔
弁天島遺跡や
大中の
湖南遺跡に
見られるように
縄文・弥生の時代から
この地には人が定住し
集落を築いてきた



幾千年といっ
悠久の時どどもに
農耕といふ文化は
ここ安土にも
浸透してゆった

琵琶湖の内湖で
あつた大中の湖や
小中の湖は干拓され
なくなつてしまつたが

太古より内湖からの
自然の恵みによつて
人々は生きてゆくことが
できたのじゃ！

安土の肥沃な大地は
農耕社会を進展させ
支配者を出現させる
起因ともなつた

約二六〇〇年前に
築かれた「瓢箪山古墳」は
県下最大級の前方後円墳だ

その規模から
当時この地方を
統治した「王」の
権勢が想像される

被葬者はおそらく
このあたりを治めた王で
狭狭城山君二族の始祖で
あると考えられている

あッ
「老蘇森」が
見えるよ！

万葉の昔から
多くの歌人によつて
歌に詠まれた
名高い森だ

古来
中山道(東山道)を通る
旅人たちの疲れを癒す
憩いの森として
知られていた

大和時代には
仏教を盛んにしようとした
聖徳太子が寺院建立の地を
求めて近江の各地を訪れた
と言われている

織山(観音寺山)や
箕作山(岩戸山)には太子の
言い伝えが
数多く残り
残されており
観音正寺は太子が
築いたとされている

また岩戸山頂上付近には
太子が刻んだといふ十三体の
磨崖仏が残されている

そしてわしが
佐々木氏の統治の
成果を引き継いで



天下統一の拠点として
「安土城」を築城したのじゃ

豪華絢爛な
お城だったとか！

一度この目で
安土城天主を
見てみたかったわ



そうか…
ならばお見せやろう！

戦国時代には
佐々木太角氏が
織山に日本最大級の山城
「観音寺城」を築いた



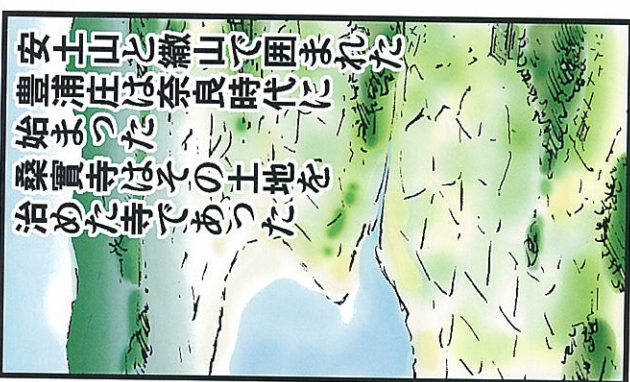
また佐々木氏は
安土の持つ地の利を活かし
自由な商取引の場を
商人たちに提供することにより



様々な文化・情報を
根付かせた功績は
大きい

日本最古の
石寺楽市ね！

安土山と織山で囲まれた
豊浦庄は奈良時代に
始まった
桑實寺はその土地を
治めた寺であった



佐々木一族は
平安から室町時代にかけて
四〇〇年に及び近江を支配した
武士だ



鎌倉幕府擁立に尽力
したというほどで
近江国の守護職に
任ぜられ勢力を拡大した
安土はその本拠地です
「沙沙貴神社」は一族の
氏神となった

でも…どうして
ここにお城を
つくろうと思った
の？



ここは
交通の要衝地だ
愛知や岐阜は
わしの出身地…

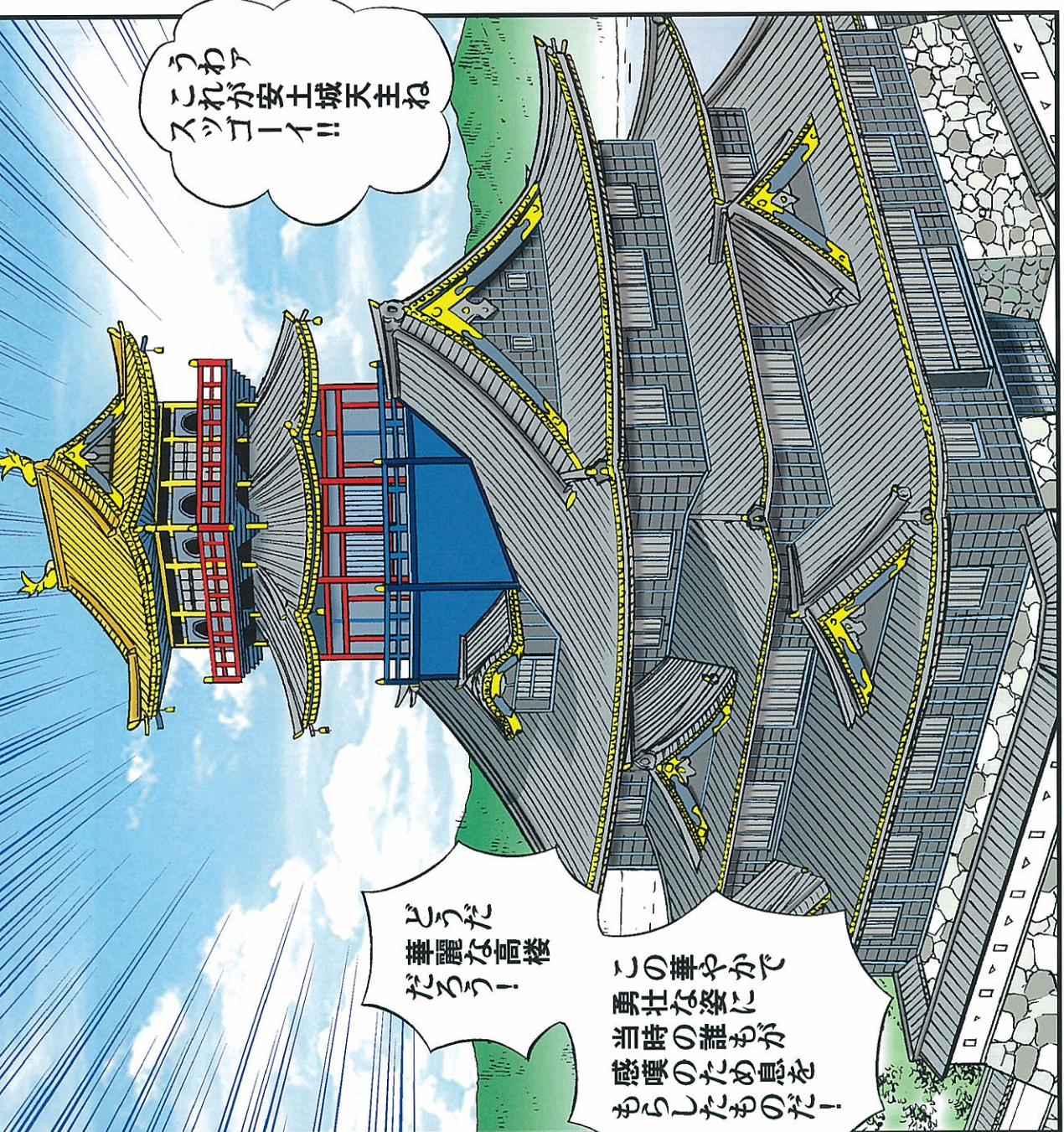
また都である
京都に近く、東西陸路
瀬戸内・大阪からの
水路の便もよい
そして何よりこの地の
風光が気に入ったのだ

安土には
心の根があった
ここに住む人たちの
心をやさしく包み
安らぎを与える
心の根だ！



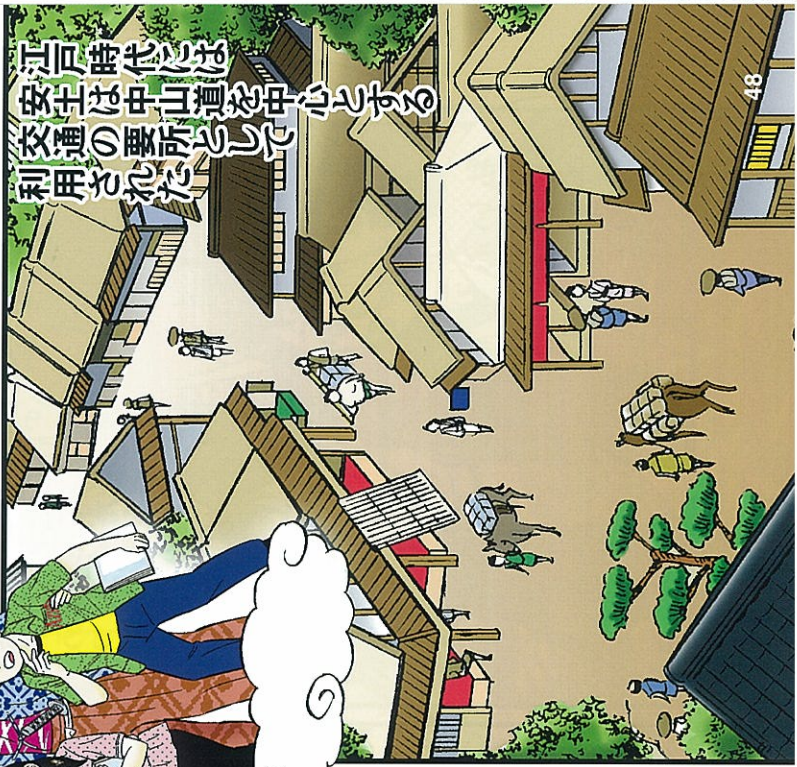
心の根…
いい言葉ね！
私もそう感じるわ

うわ
これが安土城天主ね
スツゴイ！！



どうだ
華麗な高樓
だろう！

この華やかで
勇壮な姿に
当時の誰もが
感嘆のため息を
もらしたものだ！



江戸時代には
安土は中山道を中心とする
交通の要所として
利用された



また多くの内湖を
有したことから
湖東平野の穀物などの
物資集散の港としても
栄えたのじゃ



城下の
常楽寺は
「北川湧水」など
良質の湧水の地でも
ある
茶会を催す時は
「梅の川」の水を用いて
心を休めたものじゃった



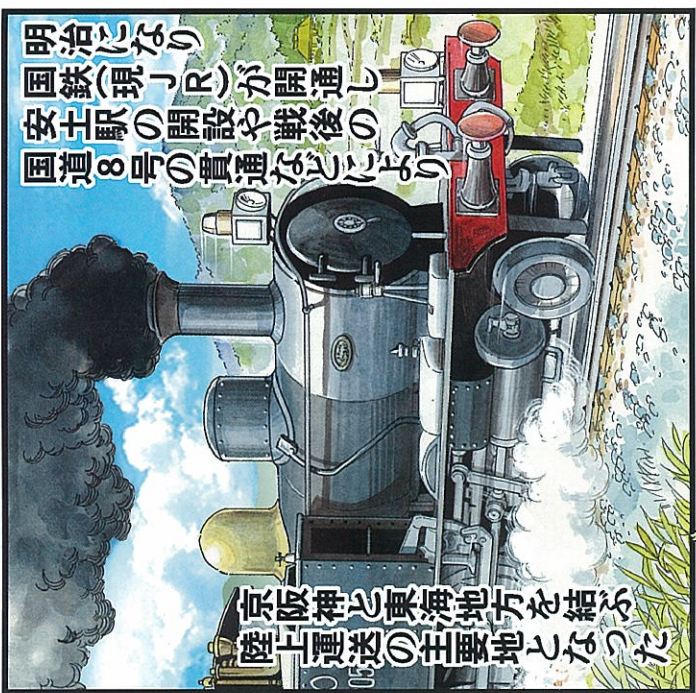
おっ
城下で
相撲大会を
やってるよ！
そろそろ安土は
近代相撲発祥の
地と言えるじゃー！



わしは城下町を整備し
都に負けない賑わいと
なるよう目指した
特にキリスト教の布教を許し
セシナリヨ(神学校)を
開校した
日本の西洋文化は
長崎や京都
そして安土から
始まったのじゃー！



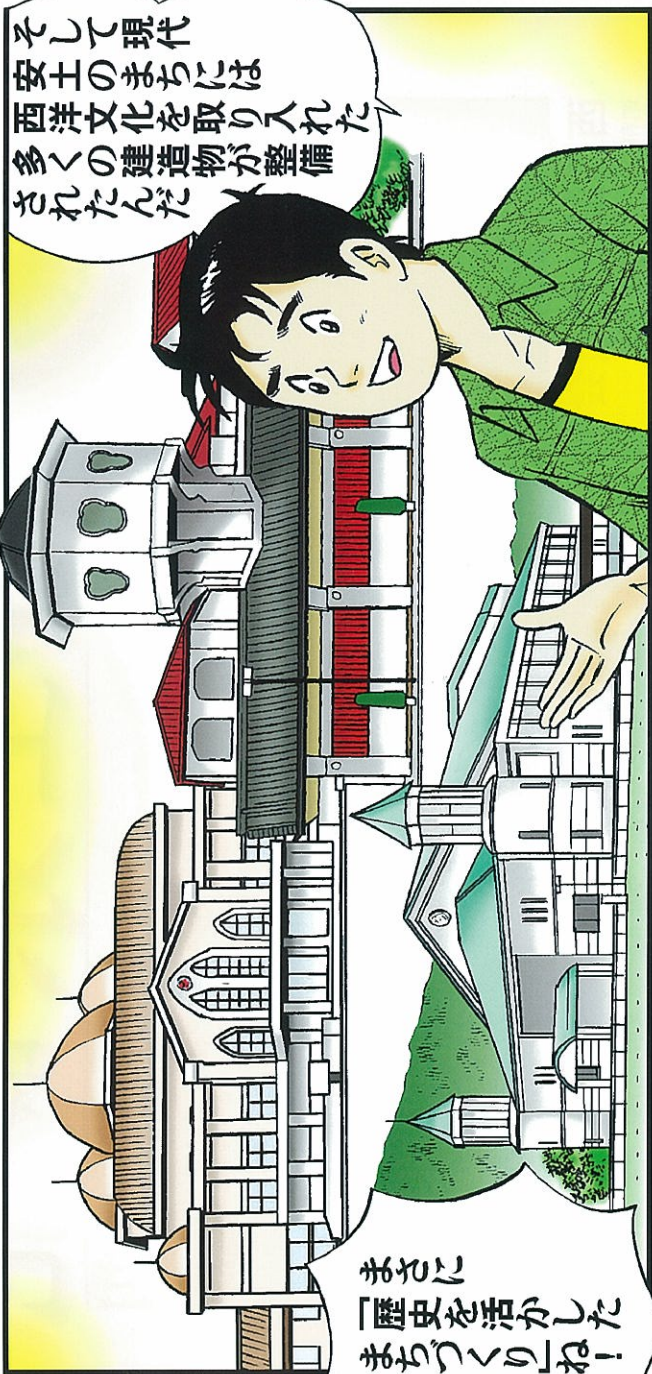
また城下町の道路を整備し
関所・通行税を廃止して
流通を容易にし
自由経済を
推進した
あっ
楽市楽座ね



明治になり
国鉄現「JR」が
安土駅の開設や戦後の
国道8号の貫通などにより
京阪神と東海地方を結ぶ
陸上運送の主要地となった



その反面、昭和になり
戦後の食糧増産と
復員兵の帰農策のため
大中の湖をはじめとする
多くの内湖は干拓され
船運送は衰退する
今残ってるのは
琵琶湖最大の内湖である
西の湖だけとなった



そして現代
安土のまちには
西洋文化を取り入れた
多くの建造物が整備
されたんだ
まさに
「歴史を活かした
まちづくり」ね！



ハハハ！
うれしいぞ
安土ルネッサンス
が蘇ったよう
じゃー！
あっ
また銅像に
戻った！



そうか！
安土の大地には
深い歴史の文化の
香りがしみ込んで
いるんだね
これからも
安土の良さを引き継ぎ
人々に夢と
安らぎを与える
まちにしてゆきたいわ！

あづち信長まつり

6月上旬

織田信長の命日にちなんで開催される信長まつり。メインイベントの武者行列では信長を筆頭とする武將や鉄砲隊などに扮した人々が町内を練り歩きます。また、会場内では、安土城下町で採れた薬市菜壺を再現し、地元特産品を出展した安土薬市が開かれます。(昭和61年から平成9年はフェスタ信長として開催)



安土薬市まつり

各種イベント開催時

信長まつりやふれあい秋まつりなど、イベント開催時に同時開催されます。

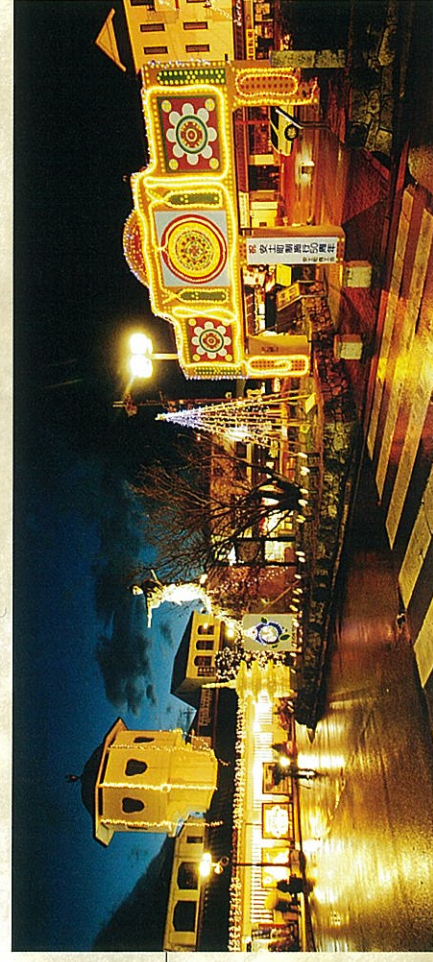


今も華やぐ

ふるさとふれあい秋まつり

11月上旬

文芸の郷を会場に、安土の特産品を販売する安土薬市や、1,000人パーペキュー大会が行われる他、地元のと太鼓グループ「あづち信長出陣太鼓」をはじめとするステージパフォーマンスなど、各種イベントが開催されます。



駅前ライトアップ

12月上旬から1月上旬

安土駅前の活性化を図って始められた年末恒例のイベント。駅前ロタリーがあざやかにライトアップされます。



大相撲安土場所

昭和63年開催

近代相撲発祥の地として、信長が安土城下町で行ったという史実に基づき、昭和63年に開催されました。

昔なつかし

安土祭時記

【まちに息づく祭り】



西の湖花火大会

昭和56年～平成17年

西の湖湖上で約1,000発の花火が打ち上げられます。湖畔では灯籠流しも行われ、湖面には幻想的な世界が映し出されました。



400年記念祭

昭和156年5月30日～6月7日

バチカン市国ガスパリ大使からローマ法王ヨハネ・パウロ2世のメッセージが伝えられるなど、聖歌が流れるなか、厳粛に記念ミサが行われました。会場では信長公を偲んで、馬そろえや鉄砲隊の演舞、献茶式などが行われました。

全国山城サミット

平成21年開催

全国屈指（最大級）の山城とされる観音寺城のあった安土町で開催。講演会、シンポジウム、歴史ウォークが行われました。

観音寺城イベント

平成3年～19年

佐々木六角氏が築いた観音寺城にスポットを当てたイベントで、観音寺山周辺の老蘇地区を中心に歴史講演会や歴史ウォークなど様々な催しが開催されました。

中山道400年祭

平成14年開催

中山道に宿駅制度が整備されて400年、これを記念して中山道が走る老蘇森周辺で記念イベントが開催されました。平安期の和歌に詠われた老蘇森にちなんで短歌が募集されました。他、歴史ウォークや歴史講演会が開催されました。



岩戸山十三仏千日会

4月上旬

岩戸山十三仏は一枚岩に聖徳太子が爪で刻んだと伝えられる13体の石仏が安置されています。毎年4月24日前後には千日会が行われ、多くの人々ににぎわいます。



沙沙貴まつり

4月上旬

近江源氏発祥の地として知られる沙沙貴神社の春の祭礼です。氏子の若衆たちが、直径2m、長さ5mの大松明を引き回して神社に奉納します。



奥石神社 諏訪まつり (諏訪社例祭)

8月中旬

奥石神社境内にまつられている諏訪社の夏祭りです。神輿や山車が集落を練り歩き、露店も出て子供から大人まで大勢の人たちでにぎわいます。



地域に伝わる獅子舞 (獅子神楽)

毎年1月から2月にかけて町内の各集落では伊勢神宮に奉納される獅子舞が見られます。獅子舞は家々を回り、曲に合わせて舞い、各戸で電蔵い(かまどばらい)や門口でお蔵いを行います。伊勢派の獅子神楽を伊勢大神楽と呼びますが、なかでも伊勢大神楽講社の獅子舞は国の重要無形民俗文化財に指定されています。

神楽ヶ丘と 下豊浦祭礼

下豊浦の活津彦根神社の境内に獅子神楽があり、神社本来の祭りとは別に、「蛭子おどり」というものがあります。



沙沙貴神社の 茅の輪くぐり

6月下旬

水無月に行われる夏越の大祓で、茅で作られた大きな輪の中をくぐりぬけることで罪やけがれを祓います。

安土祭時記

【地域に根づく祭り】



沙沙貴神社 近江源氏祭

10月

佐々木源氏ゆかりの人々が全国から参集し、神前で舞楽を奉納して先祖をしのぶとともに平和と繁栄を祈願します。

郷土料理

ふるさと
再発見

母の味、おばあちゃんの味、そして地域の味…。
いつまでも語り継ぎたい郷土の味は、いつも私たちにあたたかい。

めずし

いわれ

琵琶湖の魚で冬にとれた
ハイを漬け込み、夏の暑い
時期にスタミナ、夏バテ防
止など、食べやすい夏のこ
馳走 全におおきな料理
として作られています。

作り方

- 1、ハイを背開きにして、はらわたを出し、塩を大量に入れ、重石をきつくして半年以上つけておく。
- 2、7月〜8月の暑い時期に1を出し、魚の目玉を取り、きれいに水洗いする。
- 3、水切りをして、酢に1時間漬ける。(ボールなどに魚を頭から並べ、酢を全体にふりかける)
- 4、米を炊く。炊きあがったら、ご飯を半切にあけ、塩をまぶし、よく冷ましたご飯と魚を交互に桶に漬け込む。
- 5、重石をきつくして、水を重石の上から入れ、1時間漬けておく。
- 6、逆重石をして、水切りをし、魚の腹にご飯を入れてお寿司みたいに握る。



材料 (4人分)
ハイ(魚) ……8匹
塩漬用塩 ……200g
米 ……1合
塩 ……3g
酢 ……0.1カップ

ギギの蒲焼き



ギギは、もとはは「鱈」、
子どもには「夜泣きの薬」といわれ、湖国では古くから蒲焼きにしてよく食べられてきました。醤油、酒、みりん、砂糖などで作ったタレのおいが香ばしく、やわらかく、あっさりとした淡泊な味わいです。

ウロリ



ざるの中で、体が透き通って見える夏の川魚ウロリ。お盆のつくだ煮としてよく作られてきました。都会から帰省してきた肉親たちが杯を酌み交わし土産話に花を咲かせ、談笑する際の格好の肴です。

打ち豆汁 (祈禱汁)

いわれ

織田信長が戦いに打ち勝つところあわせと武士に力をつけやすため、好んで利用したとされる伝統食です。上豊浦や、下豊浦地区では現在も神事・仏事に出されています。
とくに下豊浦地区では、集落の代表で伊勢代参をされた方を迎えて、村中で儀式が行われる際に祈禱汁として村人にふるまわれます。

作り方

- 1、大豆を洗い、沸騰した湯の中に入れ、ふき上ればざるに取り、ふきんで包んで一晩重石をして置く。
- 2、石うすの上で大豆を一粒ずつ木槌でたたいて、花が咲いたようにする。
- 3、ズイキと、ねじ干し大根は細かく切つて水に浸けてもどす。
- 4、釜に水とだし昆布を入れて、だしをとり沸騰したら、油揚げ、1、2を入れ味噌を加えて中火で3時間ほど炊き、更に弱火にして5時間ほど焦げつかないように煮る。
- 5、その後小芋を入れ、火が通れば豆腐を入れ、豆腐が浮き上がれば出来上がり。

材料 (4人分)
油揚げ ……1枚 乾燥ズイキ ……適量
豆腐 ……半丁 大豆 ……150g 小芋 ……150g みそ ……75g
大根のねじ干し ……適量 だし昆布 ……適量



◎ その他の郷土料理	近江大中牛	鴨料理	金時人参
甘露煮として作られることが多い。素朴な初冬の味として親しまれてきました。もろこは、近松門左衛門の浄瑠璃に「いさざ小娘(えび)の運諸子(もろこ)」と詠まれ、琵琶湖特産のひとつです。	安土町の味覚の一番手。松阪牛や神戸牛と並んで、高級牛肉と称される近江牛のひとつです。大甲地区で生産される近江大中牛は、過去に日本一に輝いたこともある上等な肉質が自慢。ステーキが絶品です。	古来、蔵冬の滋養と美味として愛されてきた鴨料理。コレステロールが少なく、ビタミンが豊富です。安土町では平成元年から特産品としてフランスマンも取り入れられました。	おせち料理に赤い彩りを添える金時にんじん。色鮮やかで長く、東洋種のにんじんとして代表的な品種です。肉質がやわらかく甘く、独特の風味があります。お雑煮、白合えなど、幅広い用途で親しまれています。
甘露煮として作られることが多い。素朴な初冬の味として親しまれてきました。もろこは、近松門左衛門の浄瑠璃に「いさざ小娘(えび)の運諸子(もろこ)」と詠まれ、琵琶湖特産のひとつです。	甘露煮として作られることが多い。素朴な初冬の味として親しまれてきました。もろこは、近松門左衛門の浄瑠璃に「いさざ小娘(えび)の運諸子(もろこ)」と詠まれ、琵琶湖特産のひとつです。	えびと大根をじっくり煮込んで作る伝統料理です。桃色に色ついたえびの甘い風味と滋味豊かな大根は、おふくろの味といえます。煮るときに少し味噌を加えると、より風味よく仕上がります。	幻の青ねぎとも呼ばれる各産品。美しくやわらかく、甘みがあり、すき焼きや水炊きなどの鍋物によく合う最高のねぎです。根元が白いことから、一般には白ねぎのことを指す「根ブカ」と呼んでいます。
春に仕込み、夏と秋を越して正月に味わう伝統食。日本で最も古い形のななれずしといわれ、奈良時代には庶民の間で盛んに作られていたそう。湖と陸の幸が出会って生み出された文化です。	大晦日や1月7日・15日、節分などの日に無病息災を祈って食べます。地域によっては、正月三日に食べる習慣もありました。野菜がふんだんに使われ、バランスのよい食事を心がけた昔の人の知恵です。	お正月や、おめでないことにつき物の黒豆。豆を煮ている間、煮汁に水を随時足しながら、常に豆が煮汁に浸かっている状態を保つこと。そうすれば、ふっくらととらとらずつややかにかかかります。	お正月や、おめでないことにつき物の黒豆。豆を煮ている間、煮汁に水を随時足しながら、常に豆が煮汁に浸かっている状態を保つこと。そうすれば、ふっくらととらとらずつややかにかかかります。